

## 16 工事関係者等による火災

【関連章第6章2】

### 事例1 「建物の解体工事中に出火した火災」

出火時分 3月 13時ごろ

用途等 解体工事中建物

被害状況 防音・防塵シート若干、廃材若干焼損

#### 概要

この火災は、解体工事現場で作業中に出火したものです。

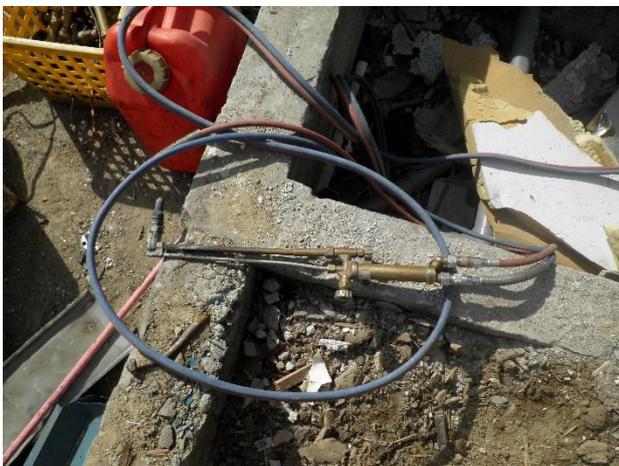
出火原因は、解体作業員がアセチレンガス切断器を使用して金属製のトタン板を切断していたところ、トタン板の裏にあった廃材に接炎して出火したものです。

解体工事現場の近隣の居住者は、帰宅途中に臭気を感じたため、臭気のする方を確認すると、解体途中の建物の壁面から炎が上がっているのを発見しています。発見した時点で、解体工事現場の作業員がすでにホースで水をかけていたことから自宅に戻りましたが、その後、消火できたか不安になり、携帯電話から119番通報をしています。

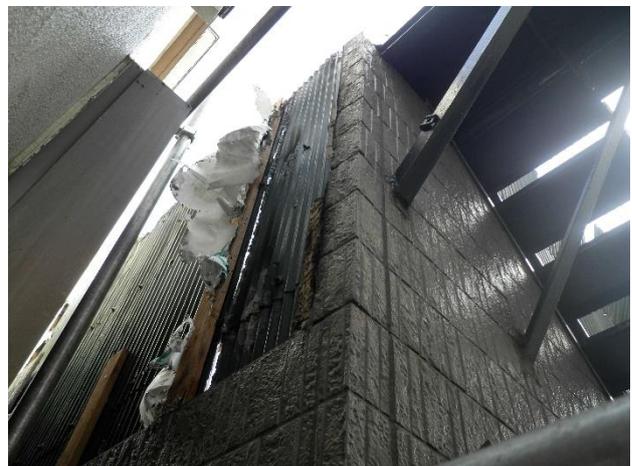
#### 教訓等

この火災は、作業員がアセチレンガス切断器を使用する際の危険要因を認識し、水をかけながら作業していたにも関わらず出火しています。また、作業員は作業中に臭気を感じていますが、いつものことだと考え火災が発生している認識がありませんでした。作業箇所によっては、切断時の火花が可燃物に接触しないように、不燃性の養生シートを使用するなどの配慮が必要です。

工事現場には、電気やガスの他にも工事で使用する引火性の危険物などを使用することもあります。作業員はいつものことと過信せず、作業工程の危険因子をしっかりと把握し、安全管理を徹底しましょう。



16-1 作業中に使用していた切断器



16-2 焼損したシート及びトタン板